

科目名	作業療法評価学			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	2年 前期
【授業の目的・ねらい】 作業療法の実践の仕組みを理解し、今後の評価実習、臨床実習のイメージを作る。 また、作業療法の実践における評価の重要性を理解する。								
【実務者経験】 作業療法士として順心会幸生病院、介護老人保健施設白寿苑・夢前白寿苑にて、身体障害領域・老年期領域のリハビリテーションに従事経験。								
【授業全体の内容の概要】 作業療法実践における仕組みについて講義し、それぞれグループにて内容を検討する。 事例にて、具体的な評価の列挙、評価計画の立案を経験する。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 作業療法評価の基本的な考えについて説明できる。 作業療法を開始するに当たって、必要と考えられる評価を列挙できる。 作業療法評価計画を立案することができる。								
回数	講義内容							準備物(教材)
1	オリエンテーション 作業療法実践の仕組み総論							プリント
2	各論1：Ⅰ情報収集段階（準備段階）①資料・情報収集							プリント
3	各論1演習(グループワーク・発表) 各論2：Ⅰ情報収集段階（準備段階）②面接③観察							プリント
4	各論3：Ⅱ初回評価、初期治療・訓練、援助期間 ④初期評価実施計画立案—検査項目の選択 各論3演習（グループワーク）							プリント
5	各論3演習（グループワーク）							プリント
6	各論4：Ⅱ初回評価、初期治療・訓練、援助期間 ④初期評価実施計画立案—検査測定 の実施・検査結果の解釈と検討							プリント
7	各論5：Ⅱ初回評価、初期治療・訓練、援助期間 ④初期評価実施計画立案—評価結果からの対応課題 各論4・5演習（グループワーク）							プリント
8	各論6：Ⅱ初回評価、初期治療・訓練、援助期間 ⑤カンファレンスによるリハビリテーションゴールの設定 各論4・5演習（グループワーク）							プリント
9	各論7：Ⅱ初回評価、初期治療・訓練、援助期間 ⑥初期治療、訓練、援助							プリント
10	事例検討①							プリント
11	事例検討②							プリント
12	事例検討③							プリント
13	事例検討④							プリント
14	事例検討⑤							プリント
15	事例検討⑥							プリント
定期筆記試験								
【使用教科書・教材・参考書】 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院 参考：作業療法実践の仕組み 共同医書出版								
【準備学習・時間外学習】 1年生で学んだ検査測定について復習しておく。 事例に関しては事前に読んで、分らない語句について調べておく。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は課題を50点、定期筆記試験を50点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。								